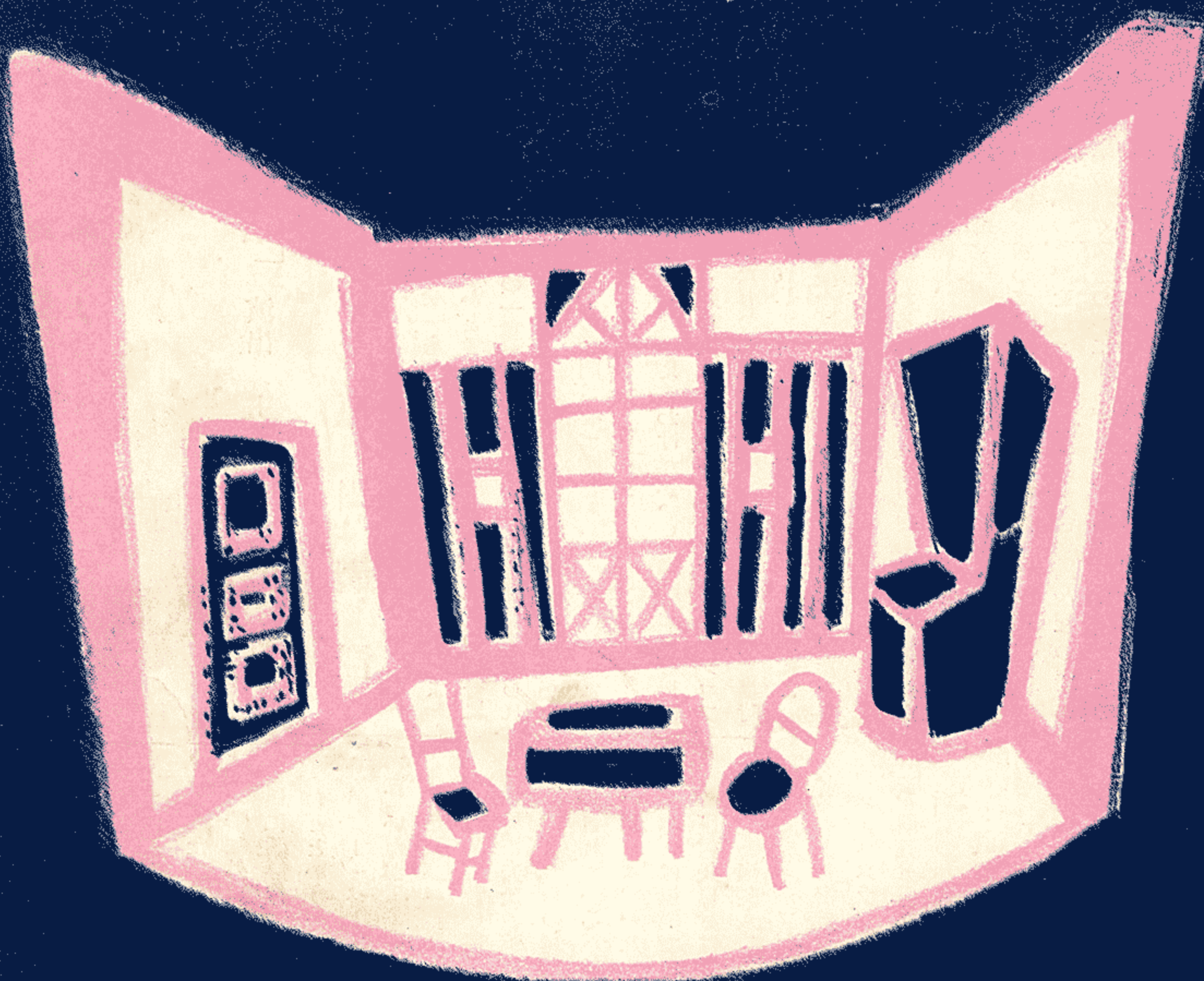


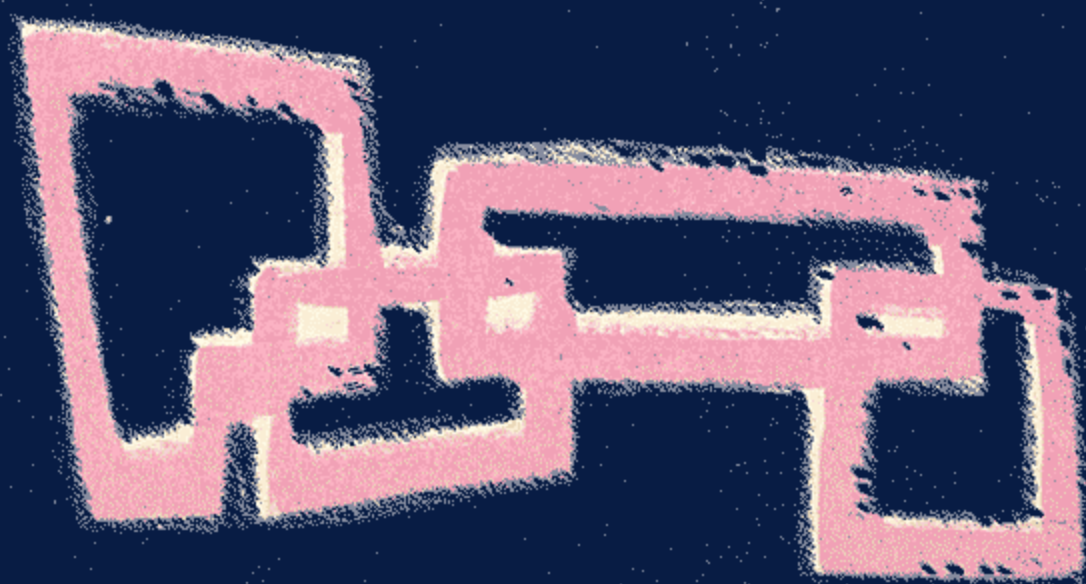
チエーフ 原作
下村正夫 脚色



1エク6バ

結末のない話

静岡大学演劇研究会・静岡・



11月23日

静岡市公会堂

12月1日

浜松誠心学園ホール

怯懦に冒された才能

「結末のない話」 演出ノートより

静大演劇研究会 原田 満 澄

筆のすざびに任せて綴った「文字の組合せ」も、何度か繰り返されることによつて、全く陳腐なものになり終るのではないかと考える。(これは、すべての場合に ついての謂ではない)。その意味で、この一章を掲げること、何とはなく憚られるのであるが、敢て拙文を省みず、再び繰り返させて戴いたのは、時間的余裕がないことと、遅筆の爲とであつて、この事は予め釈明させて戴こう。

X X X X X

私がこの研究会に入籍して今年で、三年目を迎えるわけだが、その祿を食む以前において、すでにロマン・ロランの「愛と死の戯れ」を始め、レオン・クルツコフスキーの「ドイツ人」などを演じて、かなりの実績を挙げて来ていると聞く。当時文理・教育兩学部演劇部はそれぞれ孤立して居り、前述の作品は教育学部により「わだつみの声」「帰省」などは、文学部によって別個に上演せられたのださうである。

昭和二十九年、私がこの小史の末端に加わるに及んで(自己中心的な言い方だが勘弁して戴く)、兩学部の演劇部は合併し、第一回の作品として、老舎作「北京の歌い女——方珍珠」がとり上げられた。

こうして、マルコ・ポーロの足跡を辿つて、西欧から中国に至つた私たちは、三十年の文化祭で遂に彼の達し得なかつた夢を追つて、日本の舞台を踏んだのである。が、それは、かの碧眼紅毛の描く黄金の夢にあらずして、まさに骨肉相食む呻吟の色合いであつたのだ。この、野沢富美子の「煉瓦女工」から得た、貴重な見聞録を携えて、私たちは、今度は十九世紀末葉のロシアに渡ろうというわけである。その、ツァーリズム(皇帝政治)・ロシアの不合理性に、ファシズム・日本(煉瓦女工の記録は、実に茲に存していたのだ)の規矩をあてがって見ようというのである。

この戯曲「結末のない話」は諷刺劇である。(この事については後述しよう)。ここで諷刺劇をとり上げたのも、全くいわれのない事ではなく、一つには今まで

のジメジメした作品から、少しく趣向をかえようという意図が、皆の心の中に萌していたからであらうと思う。

特に外国作品でなければならぬという理由はなかったようだ。その間の事情は他に候補作品として、「サークル物語」「第三の証言」「市川馬五郎一座顛末記」などという一連の本邦作品が上げられていたことから知られる。

アー・ペー・チェーホフは——当時自らを、アントーシャ・チェーホンデと称していたが——一八八三年に、「小喜歌劇」を公けにし、一八八五年には「花婿と父さん」及び「悪漢」を、又一八八七年には、「誘惑」を著わしている。これらは、いずれも短篇小説として書かれ、概ね中村白葉氏の訳によつて知られるが、後、更に下村正夫氏の手によつて総合せられ、戯曲形式としての完成を見たのである。戯曲中、これらの短篇は、プロローグ、第一話、第二話、第三話及びエピローグの順に配されているが、題名もそれにつれて多少変更されている。なお、表題「結末のない話」は、一八八六年にかゝれたチェーホフの同名短篇によるものであるが、その内容とは無縁であるとの由。

下村氏自身は、この戯曲について、いわゆるスタニスラフスキー・システムを研究する演劇人の為、便宜的なレパートリーとして筆を執つたのであると述べている。チェーホフがモスクワ芸術座を通して、名優、名演出家としてのスタニスラフスキーと密接な関連を有していることから、この下村氏の言は容易に肯かれる。又スタニスラフスキー・システムの本質と、チェーホフのドラマトゥルギーの神髄とを関連せしめて考える時、そこに凝縮されるものが日常生活の倫理であることも、兩者の共通性を物語っている。

この戯曲で表わされている人物は、時代の、或は社会的階級の典型である。

一八六一年の、アレクサンドル二世による農奴解放後も、ツァーリ政体の圧制は依然として強い根を残していた、というよりも、一八六六年のカラマーゾフ事件を通して、為政者の態度は日一日と苛酷の度を加えていったという方が妥当であるようだ。かゝる圧制と警察政治の恐怖を理解し得て始めて始めてこの戯曲のテーマを首肯することが出来る。

こゝに描かれている主要人物は、そのツァーリ政体下におけるプチ・ブルジョア及び、インテリゲンツィア達である。

小市民、ヤーコフ・クリヴォモルトウイは、最近野心的な戯曲をものした。今宵、わが家で催されるさゝやかな晩餐会は、この野心作を披露するに、又とないチャンスである。というのは見かけの上の話であつて、彼としては、それをする為

にわざ／＼しつらえた席であつたのだ。

彼はひとわたり客を見わたすと、おもむろに朗読を始める。この／＼の筆の慰み／＼が、第一話から第三話となつて展開する。

読み終ると、一同しばし茫然の態——短い間に続く教師、新聞記者のブラヴォーの聲は、忽ちにして感嘆と賞讃の場を現出せしめる。熱狂未だ醒めやらぬ内に、彼らは、この戯曲の内容が、殆んど為政者に対する批判に終つてゐることを知る。それにつけて、そろそろに恐ろしくなるのは、警察政治の弾圧である。／＼その筋のスパイが、ソツと立ちぎさしてい／＼るかも知れないという、教師ドドンスキーのことは、ヤーコフをして、ついにその野心作を破棄せしめる。

この作品にあって、終止第三者的な観照の態度をとつてゐるのが、ヤーコフの娘カーチャである。因みに、カーチャの形象が十三、四才の童女であることも、一つの典型化を物語る好材料ではなからうか。

一般に、戯曲のテーマは、しばしば最後の台詞なり、動作なりに表われるというが、この戯曲においても、カーチャの最後の台詞が重要なエレメントとなつてゐる。／＼な／＼だ、カーチャ、わかんないなあ……ねえ、パパのお芝居面白かったの、それともつまんなかったの……／＼は、私たちをして、「結末のない話」という表題を難なく容認せしめる。

第一話は、退役陸軍少将の、独善的、打算的な縁談に対する非難であり、第二話では、食欲に魅了し尽された地方官憲達の、仕事に対する不誠実さが槍玉に上げられてゐる。第三話に至つては、何ら罪の意識なくして捕えられた農民に対する、地方官憲の取調べを扱つてゐるが、彼——裁判官の、農民の生活感情に対する無理解とか、身分による取調べの不平等とかが、批判の的となつてゐる。

これまでの過程に於ける、ヤーコフのイデオロギーは、チェーホフのその変形としても考えられるが、ツァーリ政体への恐怖に敗れ去つた（ここに私たちの思想のアクセントを置くべきであるが）脆弱なヤーコフと、その取り巻き達は、最後に至り、カーチャの疑義を通して、チェーホフの、延いては私たちの批判の対象となる。ここでヤーコフは、四面の楚歌に戦慄することなく、潔く戈をとるべきであつたのだ。ドン・キホーテの故事も、今にしてあなたがち誇張でもあるまいに……。

地方自治体附属学校教師の職にあるドドンスキーの、いわゆる俗物と、チェーホフのそれとの間には、大いに概念のズレがある。チェーホフのいう俗物根性とは、行動を離れた観念論者であり、民衆の生活から遊離した脆弱なインテリゲンツィアそのものであることを考えるならば、ドドンスキーのいう／＼頗るつきの俗物／＼（プ

ロローグ）が、笑劇における劇中劇の台詞に外ならず、全くのナンセンスとして、笑いの要素を形成することを知らるであらう。

戯曲の類別と、その定義は、相対的なものであつて、時代により、人によって、様々に解釈せられる。ギリシャ劇のコモイディア（喜劇）及びトラゴイディア（悲劇）の概念も、近代的感觉からしては、少しく理解に苦しまざるを得ない。シェクスピア劇に至つては、王侯貴族の生活を除いて、すべて喜劇として扱われていると聞く。

聊か軌道を逸してしまつたが、この作品としてはいかなるジャンルに属さしめたらよいであらうか。ヤーコフの言を借りるならば、ファルス（笑劇）である。が、その笑いという語が、苦笑を意味し、或は、嘲笑という意味を含んでゐるとしても私たちは、単に笑いだけで済ませ、冷笑の犠牲にしてしまふことは出来ない。さればといつて、悲劇でない事は明瞭である。ここには、為政者に対する、刺すような皮肉がないであらうか。これは明らかに、為政者の諷刺画である。私たちは、このような観点から上演することによつて、現今の為政者たちと、世論の対照を見たいと思つてゐる。

ここに於て、観客は、ディオニソス（酒神）の心境——その陶醉感から脱してアポロンの知性、分別に近づくことが出来るのである。カーチャは、観客の凝縮、結晶された形姿として登場する唯一の出口——救いである。

チェーホフの戯曲作法は、日常の倫理を基礎としてゐるのであるが、ここに演ぜられる時、それはカーチャの眼を通して逆説的に認識されるのではなからうか。上演に際して感ぜられる危惧は、私たちがチェーホフの、延いては、ロシア民族の楽天性を理解し得ずして、徒らに日本的な諦念に傾くのではないかという事ツァーリズムとチェーホフとの間に展開される白兵戦を。楯の裏から垣間見ることのみに終るのではないかということ——等々である。

（「文化と教育」十一月号掲載）

— ☆ — ☆ — ☆ —

☆ ☆ ☆ —

私達の歩み

私達、静岡大学演劇研究会は、文化祭公演のレパートリーとしてチエーホフ原作、下村正夫脚色による「結末のない話」一幕六場をとり上げ、七月から本読みに入り、公演の日を目指してバイト、教生、その他いろいろ困難や時間的制限と闘いながら部員三十数名全員が、少しでも良い仕事をしようと云う熱に燃えて努力しています。

静岡大学が新制大学として発足してから、静岡に於ては、文理学部、教育学部静岡教場にそれぞれ演劇部が誕生し、文理学部の演劇部に於ては「わだつみの声」「帰省」「小作人の娘」「赤い陣羽織」を上演し、教育学部の演劇部は、全然別個にロマン・ロランの「愛と死との戯れ」「レオン・クルツコフスキーの「ドイツ人」」等を取り上げ、それなりの成果を挙げて来ました。而し一昨年四月に、それ迄の活動の反省から、両学部の演劇部の中に、合同研究会を造ろうという動きが起り、初めての合同研究会を持ち、この時に、文化祭には合同公演という線が出され、公演レパートリーとして、本部初演の老舎作「方珍珠」。昨年は野沢富美子原作、栗原有藏脚色「煉瓦女工」を取り上げて幾多の問題を解決しながら、合同公演が一応の成果を収めました。

今年度は、昨年のまでの教訓を生かし、文理教育両学部が完全に一体となり、一つの静岡大学演劇研究会というものを造りあげ、四月から活動を行い合同の実績を少しづつ挙げています。私達の静岡大学演劇研究会が、より一層の成果を挙げる様に、皆様の御支援と御指導をお願い致します。

みごとなアンサンブル

高杉一郎

私は学生時代から芝居好きで、いまま静岡で公演される芝居は、ほとんど見のがしたことがない。そのなかで、これは身びいきも多分にあるだろうが、静岡大学演劇部の公演は、とくべつにたのしみになっているもののひとつである。

ロマン・ロランの「愛と死の戯れ」、クルツコフスキーの「ドイツ人」、老舎の「方珍珠」、野沢富美子の「煉瓦女工」、そしてこんどのチエーホフの「結末のない話」と辿つてくると、そのレパートリーのえらびかたにいかにも学生演劇らしい血筋が読みとれて、それだけでも私はうれしくなる。熱情的な青年たちの仕事であるから問題劇的な傾向がつよいことはむろんだが、しかしそれがせまい現実のなかに頭をつつこんでしまった叫喚劇やストライキ芝居に落ちてしまわないところは、さすがにひろい視野をもち始めている学生たちの批評精神だと、私はいつも感心するのである。

毎年、晩秋の公演にそなえて、学生たちは春のころから準備をはじめ、脚本の選択と決定、脚本の背景としての作家研究や時代考証、演出、舞台装置——なにからなにまで学生たちは、自分の手でも集団的に仕事をすすめていく。舞台はそのながい準備とアンサンブルの仕事のファサード（建築正面）にすぎない。正面の裏がわにかくされたこういう地味な仕事を通じて、学生たちは、やや大げさに言えば、滔々たるこんにちのパンパン文化に抵抗しているとも言えるだろう。そこをよく見ていただきたい。

信用で売る店

【毛】 【糸】 【は】 ヒツジ 羊 屋 て

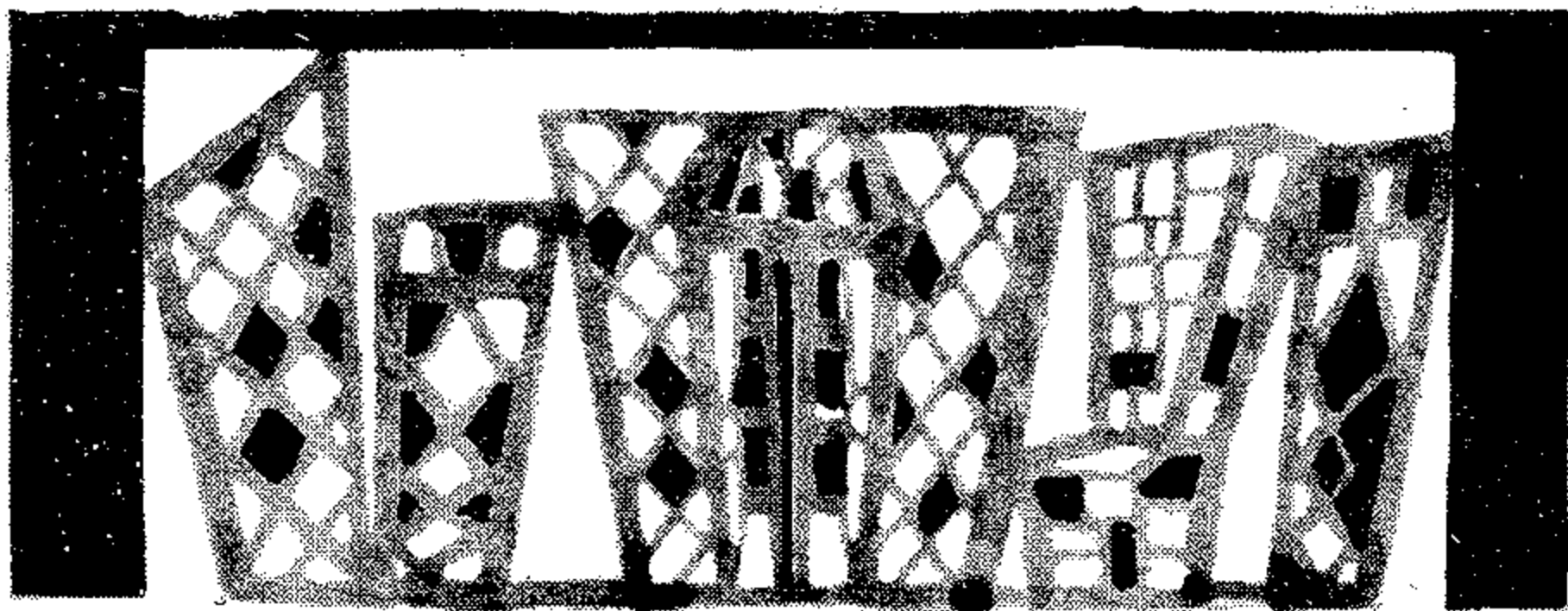
浜松市田町大映前 電 1983 番

—若い貴女の魅力わコレです—

(チャームングなおすがたは)
(センスの店キクヤのおキモノから生れます)

呉 服 の キ ク ヤ

電 話 1049・5955



へ行動するゝこと

演出 原田満澄

チエーホフの「結末のない話」が。文化祭及び浜松公演のレパートリーとして採択されたのが、七月下旬でした。八月の休暇を、個人的な研究に費した後、九月に入ると私たちはさすがにあわただしさを感じたものです。にも拘らず、身を粉にして、篩でふるった粕ほどの時間しか与えられない——何かに忙殺されながら、しかも何一つまとまらなかった仕事が出来ない——これが、まったく割引きなしの実情ではなかつたでしょうか。が、とにも角にも、モニユマンの建設は続けられました。「方尖碑文」は、幾多の「ごしつぶ」を孕み、ある時は、ほろ笑ましい（と同時に、多少嫉ましい）「ろまんすり」を交えたりしながら、深く刻み込まれたのです。就中、名古屋における国立大学演劇祭は、忘れられないものの一つです。敢ていうならば、私たちの根部が、つきることのない滋養を求めて、更に新しい土壌に突き進んだ、とも言えるでしょう。

この度の公演は、私たちの力をもつてしては、全くの未知数ですが、不可知の存在理由があればこそ抱負がいや増すという事も考えられましょう。又、逆に逡巡が感ぜられることも事実です。新しい土壌には——こう言つては失礼ですが——全く何が含まれているのか解りません。が、誰しもそこに、柔かい安住の褥を期待するものです。

私たちは、悪循環を避ける為に、かなりの話し合いを持つて来ました。それは、それなりの進路を切り開いたことは事実です。

しかし、言葉には誇張もあります。実らない花のように、観念だけに終るものもあります。思考にはからくりもあります。頭でつかちと呼ばれる所以も、存外爰に存しているのかも知れません。かく述べる私の文章にも、なにがしかの潤色がないとは言えません。

私たちは——気障な言い方ですが——この危惧を克服しなければなりません。それはへ行動するゝ

（K・C・スタニスラフスキー）ことなのです。しかし乍ら、それは、私たちの物質文明、精神文明就中思考の概念を培つてくれた言葉に対する「理由なき反抗」ではありません。言つて見れば、言葉は私たちの母体なのですから。

私たちは、この「言葉」をいたわり、それに安住の地を与えなければならぬと思います。言い換えるならば、安住の地とは、「適材適所」の謂でもあります。そこにこそ、演劇の機軸「行動」の存在理由があるのではないのでしょうか。言葉、言葉……これがすべてではないという事を、更めて認識する必要があると思います。

（十一月十九日脱稿）

テレビ・ラジオ部分品
テレビ・電蓄ケース

R K 商 会

鍛冶町松菱横 TEL 2833

美しくなる喜び

なやみの御相談は

化粧品の 金 原

かじ町通 TEL 3154

結末のない話

チエーホフ作
下村正夫脚色

一幕六場

スタッフ

演出	原田満澄
演出助手	入江海太
同	三山早苗
舞台監督	竹内欽二
同助手	竹田秀次
装置	後藤知由
同	勝亦順子

キャスト

◇プロローグ（作家のエピソード）

ヤーコフ・セルゲーヴィツチ・クリヴォモルトウイ	竹村峻司
その妻ロザリーヤ・フョードロヴナ	春田幾美
その娘カーチャ	岡本光恵

地方自治体議員エゴール・ルキーツチプロチョール	入江海太
-------------------------	------

同夫人リニボーフィ・イワーノヴナ	吉野みどり
------------------	-------

地方自治体附属学校教師アレクセイ・セミョーヌイツチ・ドドン
スキー

木田豊

地方新聞雑報記者ピョートル・ミハイロヴィツチ・オジャヤープキン

渡辺修治

クリヴォモルトウイ家女中ペラゲーヤ

勝亦順子

◇第一話 花婿と将軍とドクトル

一場（コンドラシキンの家の客間）

退役陸軍少将パーヴェルワシリイウイツチ・ゴンドラーシキン

興津靖彦

同夫人マリア・アンドレーエヴナ

松村安子

地主の若旦那ピョートル・ペトロヴィツチ・ポルカトツキー

塚本定夫

(あらすじ)

◇プロローグ

作家のエピソード

所 ロシヤの一地方都市
時 早春夕刻

小市民クリボモルトウ家に今宵招かれたオジャー・プキン(新聞記者)・ドドンスキー(教師)・プロチョール(地方自治体議員)夫妻の客達はここの主人ヤーコフの書いた三つの笑劇を紹介される。

◇オ一話 花婿と將軍とドクトル

旦那のエピソード

一場

がんと欲の深い退役陸軍少将コンドラ・シキンとその妻マリア・アンドレエヴィナは無為の地主の伴ボルカトイツキーと娘(出場せず)を結婚させようとする。

ボルカトイツキーは苦しい理由をつけ必死にその結婚から逃れようとするが彼らには仲々聞き入れられない。そこで最後の手段として自分を狂人にまででっち上げてしまった。

二場

場所 地方自治体医ゼリテルスキー家の居間

時 第一場と同じ昼下り

ボルカトイツキーは狂人の証明書を彼の友人の医者ゼリテルスキーに書いてもらいに行つたが、これまた妻の言行にくさりきつている……

◇オ二話 誘惑

官吏のエピソード

所 あるロシヤの地方裁判所の司法官控室
時 日没に近く

地方裁判所の司法官裁判長トレバイ・ハーフ書記シトール判事ポターポフ検事補ネドチローピン判事プラトニコフの連中の話

御立派な面々がそろつてゐるのだが仕事の方はそのどうも……それよりシトール判事の云うザクースカピローグ鴨ソーセージの方がよほど大切とあつては……

◇オ三話 悪黨

農民のエピソード

所 予審判事チリーの調室
時 早春夕刻

△入り用だから枕木の留金をはずしたんですよ▽罪の意識のない農民デニスも判事の学問の力にはかなわないとうとう悪党にされてしまふ。

◇エピローグ

所 プロローグと同じ

時 同日・約二時間の後……すでに夜である

我らのヤーコフは偉大なる洞察力をもつてこの三話を描いた。始め客達は絶賛の言葉をあびせた。天才だ、ロシヤ文学の伝統に光輝ある一頁を……と。

しかし旧制ロシヤに生活する小市民彼らは時の支配勢力に依存し生活に無力で何ら積極性のない人々であつた。ヤーコフの原稿はこれらの社会の圧力に抗しきれず客達の友情の忠告によつて一行行けずられていく。

「真実は大事だが——名譽キソン、危険思想云々……」をあわてて思い出す。子供カーチャには不思議な大人の世界である。

メガネ



浜松市田町
桑野
電2510 大映横

良い服は……
貴男を幸福にする

ヤマカ洋服店

鍛冶町大通り TEL 295

山葉ピアノ・オルガン

ヤマハHiFi プレヤー

浜松市カシ町122

日本楽器製造株式会社

浜松出張所 TEL 125 1912

チエーホフについて



アントン・パヴロヴィチ・チエーホフは一八六〇年一月十七日タガンログの町に生まれた。祖父のエゴール・ミハイロヴィチ・チエーホフはヴォロネジ地方の大地主、チオルトコフ家の農奴だ

つたが、三千五百ルーブリの大金を払って一家の自由を買い取り、農奴から解放された。娘の分だけ少し金が足りなかつたが、地主があわれんでまけてくれた。自由の身になると、一家はプラトフ伯爵の領地ドンの管理者となつた。チエーホフの言によれば、祖父は、「確信を持った大胆な農奴」であつた。父のパヴエル・エゴロヴィチは長い間「商人」になることを夢みていたが、一八九七年とらうり食料雑貨店を開くことができた。彼は職業こそ商人であつたが、心は芸術家だつた。独学でヴァイオリンを習得した。絵も書いた。チエーホフ兄弟の才能は主としてこの父から受け継がれたものであろう。しかし父は、自分を奴隷から「一人前」にした教育方法を、むすこたちにも適用した。厳格な、文字通りの鞭の規律であつた。この苦しい思い出は子供たちの魂の中で、決して癒えることがなかつた。「私たちの才能は父からですが、魂は母からです」あとになつてチエーホフは、モスクワ芸術座の演出家ネミロヴィチダンチェンコに「私は幼年時代、父が鞭打つたことを決して許していません」と語つた。「私には幼年時代がなかつた」という彼のことは、の奥には、様々な思いがこめられているのであろう。兄のアレクサンドル・パヴロヴィチは「アントンは、鞭の下をくぐり抜けて、冷酷で束縛の多い学校を一通り終つたが、一生涯、悲哀をこめてそれを思い出した。彼は子どもの時は不幸な人間だつた」と弟の思い出を書いている。こうした環境の中にあつて、滑稽なものへの洞

察力、虚偽や不自然なものに向けられる鋭い感覚が、チエーホフの内部に育まれていった。幼いチエーホフにとつて、父や親類の者たちに対する皮肉は「小市民性」と闘う一つの形式であつた。その「小市民性」こそ、父にも祖父にもあつたはずの善良さや純粋さをゆがめてしまつたのだ。そうチエーホフはすでに見てとつていた。「金銭がみにくくも大きな役割を果たしている階級に生まれ、育ち学び、書くことを始めたために、私はおそろしく墮落させられてしまつた」と一八八八年の手紙に書いている。みじめな現実を飾り、それによつて現実と妥協しようという浅はかさ。これが小市民階級に特有の氣質であつたが、チエーホフはそんなお体裁ばかりの生活をにくみ、その裏に隠されている奴隷の心理を読みとつていた。ユ一モアによつて、こうした重苦しさから自分自身を守ろうとしたのが、彼の文学の出発そのものであつたのであろう。

(岩波写真文庫より)

著者略歴

一八六〇年南露の商港タガンログに生れ、七九年モスクワに出て医科大学に入学。同時に一家の生計を補う目的で即興的な掌篇を無数に書いた。大学卒業後も創作の筆を執り、漸次注目を浴びるに至つた。八八年短篇「黄昏によつて」プーシキン賞を受け、翌年中篇「退屈な話」により、はじめて自己の世界を確立した。九〇年樺太に赴き、この旅行体験から「流刑地にて」「グーセフ」「樺太の旅」等の作品が生れた。五九年南露ヤルタに移り、「可愛い女」「谷間」等の円熟した短篇や、モスクワ芸術座に協力して「三人姉妹」を書き、その後一八九六年に「かもめ」を書いた。一九〇二年、ゴリキイの学士院会員取消しに対する抗議として、自ら学士院会員を辞した事件は有名である。以後病をおかして「桜の園」執筆を続け、一九〇四年これを上演、半年後の六月療養地たるドイツのバーデン・ヴァイラーに急逝した。作品は他に、「妻」「決闘」「六号室」「黒衣の僧」「可愛い女」等がある。

☆

☆

☆

☆

中華料理・牛なべ

有楽街

佐藤

電話 1 4 1 8

ひとこと

順不同

★皆さん今日は、美人のワイフをもらつて、そのワイフにノイローゼになつてゐるセルテルスキーです。元来僕はフェミニストなんです。それなのに女性族をバトウするんですよ。僕は女性感が変わらないかと心配です。まつたくタデを喰つたような気持です。良い作品を作るため、舞台の上で一生懸命やります。 橋本 務

★私よりも二倍も長く人生を過した人。社交的で、単純で、夫に全てをたくして、一生懸命に娘の縁談を望んでいる母親、どう考えてみても、私には荷が勝ちすぎています。毎日毎日の練習が苦痛になるほど悩んで、それでまだわからない役……。けれども、今の私には全力をつくしてやり通す事、それだけしかありません。良くできても悪くできても、どこまでもまじめにやつて行きたいと思ひます。 松村 安子

★客席に向つて台詞をしやべります。一寸めずらしい役です。とにかくむずかしい役です。キャストにつく度にいつも苦しみました。こんなに苦しんだのは始めてです。しかし演劇が好きですから、この苦しみが最上の喜びだと思つています。がんばります。私なりに。

竹村 峻 司

★先ず最初に突き当つた壁は、役の性格や生活を、如何にすれば自分のそれに自然に調和させ得るかという事です。ましてその役が、一生ペーチカの上に寝ころんでいても良い身分で、社交上のハツタリや火遊びに熟練しているという、およそ自分とは縁のない人間でありますので、実際舞台がこわいのです恐ろしいです。塚本 定夫

★私の役はロザリーヤ、世間の事ばかり気にして、人にへつらつて

いるような、どこにでもいるような人間だけに、どうしてよいやらさつぱりわからない。プロチョール夫人と話し合つて、氣どつた調子で「まあ、おくさま……」の云いあい。大人になつてから応用しようかなと思う。 春田 幾美

★ピローグ・ザークスカ・ウォートカ、鴨に鷺鳥の丸焼き、それに牛乳づけの焼き鮒、いづれも見知らぬ他国の物ばかり。一際を想像に頼つて演技しなければならぬというこの役は、あまり食物やお酒に興味のない自分にとつてまことにやりにくく、ただただミス・キャストをおわびしたい気持で一つばい。 秋本 義隆

★ペラゲーヤの役にうつつけだと云われたほど、世間知らずですが、時々部会をさぼつたりして、仲間要領の良い方です。でも、それでいて演劇の事を考えたり、少しそれらしきまねをして案外楽しんでゐます。今度のペラゲーヤの役は少ししか出来ませんが、一生懸命やるつもりです。 明石 八重子

★何の因果か知らない。ともかく、先生と僕とは切つても切れない縁らしい。せめて芝居だけでも……、と思つたがだめ。ともかく、俗悪を極める事大なり。 木田 豊

★演劇のエの字もわからなかつた私です。それは丁度、デニースが何の事かわからないのに似ています。しかし、デニースのように、答として當つていなくとも、それが正しいと信じて、思つた事をやつて見たいと思ひます。 吉村 篤

★何となくおもしろそうだから飛び込んぢやつたけど、演劇つてむずかしいな。それに演劇に関する知識は皆無ときているから困つちやつた。だけど未知なるものをそのままはおつておくのは嫌。しかし、他人に迷惑かけたくない。恥をかくのも嫌。だから引つぱつて行つて欲しい。教えて欲しい。私だつて自分で生み出そうと、ひかちびた脳みそをかきまわしている。 藤 辺 映子

オーバー・トップー地超特売中！

服 地
毛 糸
コ ン パ ル

浜松駅前店 TEL2848・5176 有楽街店 TEL3932

★自分は思う。演劇に於ける自分の未経験さ人間性の欠如さの故に惹る不安責任を。しかし役が与えられた以上、自分は自分なりに努力して人並みに演じなければならない。自個を失う程に劇に溶け込む事に限らない喜びを。情熱的団結と調和のすばらしさを。そしてその輪の中に自分を見出し出す事を。自分を知る為に味わおう。

高橋 淳

★出演者の言葉ですつて？ 僕はね、チリイの役をするのです。「刑法第一〇八一条にわだ」。チリイのやついばつていますね、全く官僚政治のふき出しものですね、どうもチリイの性格にマッチせず苦勞をしています。いかに役をこなせますかな？ 皆さんに判断をおまかせします。

竹田 秀次

★僕の芝居は下手である、それは誰よりも僕が知っている。だが、僕は大型晩成なんだと自分をなぐさめる、だつて梯子段を一足でまたぐことは誰も出来やしない。一段一段と踏みしめてのぼつてゆくんだと、

渡辺 修次

★チエツ、畜生！ こつちは腹がペコペコなのに書かなくてはならぬとは……。これで何枚書きそこなつたのか、まわりでペチャクチャとオナカにこたえる食物の話しをされちゃ、裁判長といへどもたまりませんやネ。又今でもそうだ、おでん、黄金饅頭等の話しを始められては……。

田原 泰宏

★プロチャールの妻であり、肥満型の興奮性です。それに夫は私が少くとも文学通ぶつてゐるにもかゝらず、文学の「文」の字も解せないのです。考えれば考える程、灰色の生活です、私の不満は生来の多弁で補なつてゐるのです……。といったこの役の一片を表せたら幸と思ひます。がんばるつもりです。

吉野 みどり

ゴシップ的エピソード

◇「今度のは喜劇なんだけど、僕がやるとどうも深刻になつちやうナ。」とSが言え、片や声あり。「じゃあ新国劇やれがいい。」ちげえねえ。

◇ロザリーヤになる春田さん、附帖に十等身位のスマートな自分を描いたら、隣にいた勝亦さん「アラ、こんなに長くはないわよ」と五等身位にしてしまった。さすが、自分の事はよく認識している。と男性一同うなることしきり。

◇第二話で夕食前、シトーポルの食物の話しに熱が入り出すと、どこかでグー・グー（いびきにあらす）と奇妙な音。人間は正直ですな。

◇アクリーナ（一話二場）曰く。「足がスラリとしていないといけないんですつて……。」すると誰か「するつてえと、フーコの足はスラリとしている訳だな」フーコなるアクリーナ再び曰く「残念だけど凸凹してるわよ。太い足をもつてして私の足スラリとしてるでしょ、と言うところが如何にもアクリーナらしいじゃないのサ……。」「とは苦しい弁。

◇題してある夜の稽古。

セリフーこの世はすべてアイデアの世界の影にすぎんよ。キノコもピローグも在るように思える……。たゞそれだけさ。

真実——とは言つても、あゝ現実の秩序正しさ、この空腹の如何仕難さ。

結末——「腹が減つては稽古も出さん」と云つて一同角のそば屋へ……。 (結末のある話)

Mid-Night Concert

毎夜10時より

クラシック・ジャズ・シャンソン

名曲 美松

かじ町 TEL 2678

安くておいしい

御家庭の延長

玉屋食堂

浜松市鍛冶町八丁通り

T E L 7 3 8

楽器楽譜の御用命は

信用ある昔からの専門店

足立楽器店

浜松市連尺 電話 954 番

静大 教科書 工学部

購買部指定店

制帽の御用は……

みのや製帽店

浜松亀山町トンネル上

T E L 1 9 6 5

D, P, E

カメラと材料

タ ナ カ

浜松市名残町大通り

＝新装開店＝

純トリスパー

ポポー

松竹劇場前入る

うどんとやきそば

お腹の暖房は

コロモ

浜松

追分町サイガケ前

ふとん専門
かや

長谷川

本店 浜松市千歳町(平田通角)

カシ町店 浜松市カシ町(東洋劇場前)

T E L 5 3 1・5 5 3 1

毛糸と編物教授

ますや支店

遠鉄田町車庫北隣り

T E L 6 2 6 3

趣味のおはきもの

若森はきもの店

鍛冶町(東洋劇場前)

T E L 7 5 9

チクオンキ・レコード専門店

杉浦蓄音器商会

浜松市伝馬町100

T E L 5 1 2

きそば・うどん・中華そば

肴町劇場前

藤屋本店

T E L 7 6 8 5
4 1 4

浜松新名菓

知也保

(ちやぼ)

春華堂

カシ町 TEL 574